

どうなる・どうする あなたの町村【2】

「離島」から地域創生を考える 講演録

2016年11月29日(火)14時～17時30分

沖縄県市町村 自治会館2階会議室

主催 沖縄県離島振興協議会

一般財団法人地球共生ゆいまーる

後援 桜美林大学

沖縄県町村会

どうなる・どうするあなたの町村【2】

「離島」から地域創生を考える

会次第

14:00 開会

第Ⅰ部

14:05～14:10 主催者挨拶

沖縄県離島振興協議会会長 与那国町町長 外間守吉

代読 沖縄県離島振興協議会副会長 北大東村村長 宮城光正

14:10～14:20 ご挨拶

桜美林学園理事長・桜美林大学総長 佐藤東洋士

14:20～14:30 来賓ご挨拶

内閣府 沖縄総合事務局 事務局長 能登靖

14:30～15:10 基調講演

「有人国境離島法の施行に向けて

～国境離島に寄り添いながら～

内閣審議官 内閣官房総合海洋政策本部事務局長 甲斐正彰

15:10～15:40 経過報告と問題提起「広域離島高等学校群の創設を」

(一財)地球共生ゆいまーる 理事長 橋本晃和

(桜美林大学大学院 特任教授)

第Ⅱ部

15:45～17:25 パネルディスカッション(質疑応答含む)

17:30 閉会 名護宏雄(一財)地球共生ゆいまーる理事

パネリスト:

甲斐正彰 内閣審議官 内閣官房総合海洋政策本部事務局長

能登靖 内閣府 沖縄総合事務局 事務局長

小西砂千夫 関西学院大学大学院 経済学研究科・人間福祉学部教授

宮里哲 座間味村村長

安慶名均 沖縄県企画部企画調整統括監

本村真 琉球大学 法文学部人間科学科教授

コーディネーター:

林省吾 公益財団法人全国市町村研修財団 市町村職員中央研修所学長
(元総務省事務次官)

司会:西本政司 紀尾井坂テーミス綜合法律事務所(一財)地球共生ゆいまーる監事

◆講演者・パネリスト紹介



甲斐 正彰(かい まさあき)

内閣審議官 内閣官房総合海洋政策本部事務局長

東京大学法学部卒業。昭和56年運輸省入省。平成7年在フランス大使館一等書記官。平成13年東京都参事、平成18年国交省総合政策局環境・海洋課長等を歴任し、平成22年日本貨物鉄道株式会社ロジスティクス本部副本部長、翌年同総務部執行役員平成25年航空局次長平成26年株式会社日本政策投資銀行常務執行役員を経て平成28年6月より現職。



能登靖(の と やすし)

内閣府 沖縄総合事務局 事務局長

京都大学理学部卒業。昭和63年通商産業省入省。平成9年ジョンスホプキンス大学大学院留学。平成14年(独)日本貿易保険営業第一部アジア大洋州中東グループ長、農林水産省技術会議事務局研究調整官などを経て、平成22年内閣府大臣官房総務課調整官併任政策統括官(沖縄政策担当)付参事官。平成24年沖縄総合事務局経済産業部長を経て、平成28年6月より現職。



小西 砂千夫(こにし さちお)

関西学院大学大学院経済学研究科 人間福祉学部教授

1960年生まれ。関西学院大学経済学部卒業、大学院を経て同大学教員。2008年、人間福祉学部開設と同時に同学部教授。専門は地方財政論。沖縄県内では自治体職員と自主的な勉強会を定期的に行っている。自治体職員と協同で、日本地方財政学会の那覇市での開催を実現した。県内離島では、石垣市役所で、毎年、学生インターンを実施している。内閣府沖縄振興審議会委員。



宮里 哲(みやざと さとる)

座間味村 村長

1967年座間味村生まれ。大学卒業後県内で観光業に携わる。1994年座間味村役場採用、2003年沖縄県庁へ出向、2009年総務・企画課係長で座間味村役場退職。同年の村長選挙にて当選。2009年6月1日座間味村長就任。2013年から2期目を務める。県内離島振興、慶良間諸島の国立公園化に尽力。全国観光地所在町村協議会理事。

安慶名 均(あげな ひとし)

沖縄県企画部 企画調整統括監

うるま市出身。昭和57年沖縄県庁採用。平成22年より教育庁財務課長、企画部市町村課長、商工労働部具志川職業能力開発校長を経て、平成27年から現職。県行政の総合的企画及び市町村行政を統括し、離島・過疎地域の振興に取り組んでいる。

本村 真(もとむら まこと)

琉球大学 法文学部人間科学科 教授

石垣市生まれ 1992年琉球大学法文学部社会学科卒業。1994年龍谷大学社会学研究科修士課程社会福祉学専攻修了。2010年琉球大学博士後期課程医学研究科医科学専攻修了。博士(医学)。2014年から現職、伊良部島・多良間島のスクールカウンセラー、2015年から琉球大学学長補佐。多良間村観光振興基本計画策定審議会会長・策定委員会委員長、石垣市移住・定住支援協議会会長を務める。

◆コーディネーター



林 省吾(はやし しょうご)

公益財団法人全国市町村研修財団市町村職員中央研修所 学長

岡山県生まれ。東京大学卒業。昭和45年自治省入省。京都府、外務省在サン・フランシスコ日本国総領事館、茨城県、静岡県教育委員会、静岡県総務部長、大阪府総務部長、総務省 大臣官房総括審議官等を務める。平成14年より総務省自治財政局長、平成16年より総務省消防庁長官、平成17年より総務省事務次官、平成18年より一般財団法人地域創造理事長を歴任し、平成24年4月より 現職

◆問題提起



橋本 晃和(はしもと あきかず)

(一財)地球共生ゆいまーる理事長・桜美林大学大学院特任教授

1971年慶応大学大学院博士課程終了後、橋本リサーチコーポレーションを主宰。無党派層研究の第一人者。帝京大学教授、政策研究大学院大学教授(GRIPS)を歴任。GRIPSの留学生を沖縄に招待する「沖縄フィールドトリップ」を定年退職まで主宰。専門は計量政治学、民意政治学、意識調査。法学博士。2015年7月マイク・モチヅキと共著「沖縄ソリューション」を出版。

プロフィールは、2016年11月シンポジウム開催時点

第I部 開会

主催者挨拶

沖縄県離島振興協議会 会長 与那国町町長 外間守吉

代読 沖縄県離島振興協議会 副会長 北大東村村長 宮城光正

ご挨拶

桜美林学園理事長・桜美林大学総長 佐藤東洋士

来賓ご挨拶

内閣府沖縄総合事務局 事務局長 能登靖

【司会】本日は、お忙しい中、本日の司会進行役は、一般財団法人地球共生ゆいまーる監事をして
おります、西本政司と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日のシンポジウムの趣旨を簡単に説明させていただきます。

今回、「どうなる・どうするあなたの町村【2】」としておりますが、本年3月16日この自治会館に
おいて「どうなる・どうするあなたの町村 沖縄から地方創生を考える」というテーマで地方創生に
スポットを当てたシンポジウムを行いました。

前回このシンポジウムでは、市町村アカデミーの学長であり元総務省事務次官の林省吾先生に
基調講演をお願いし、当財団の活動を示唆していただく大変意義深い講演をいただきました。その
中で、林先生は地方創生と地域創生という言葉を使い分けられ、地方創生は、国が地方に何をや
るかというという意味である使い方をされ、その主体は国であると、地域創生はそれぞれの地方団
体が各地域の特性、すなわち歴史、自然、文化、伝統などの特徴を生かした取り組みを自らの意
思で主体的に行っていくという意味でつかわれているとご説明されました。

そこで、本日のシンポジウムについてこの「地域創生」というテーマで、それも、沖縄という地域特
性が最も表れている離島という観点から前回のシンポジウムのテーマをされに深く掘り下げて、皆
さんと一緒に考えていきたいそのような主旨で開催させていただいた次第です。

尚、本シンポジウムの主催は、沖縄県離島振興協議会と一般財団法人地球共生ゆいまいります。沖縄県町村会様に引き続きご後援を頂くとともに、新たに桜美林大学様にもご後援を頂いております。厚く御礼を申し上げます。

さて、本日のシンポジウムの進行について、お手元の進行表にございますように、Ⅰ部とⅡ部に分けて進めてまいります。Ⅰ部では、基調講演、問題提起を中心に進めさせて頂き、それに基づきⅡ部では、内閣府、沖縄県、自治体、地方自治に関する専門家など様々な分野でご活躍の皆様にお集まりいただき、様々な視点から地域創生を考えるそのようなパネルディスカッションにして参りたいと存じます。17時半までの長丁場となりますが、最後までお付き合いくださいますようお願い申し上げます。

それでは最初に、当シンポジウムの主催者である、沖縄県離島振興協議会会長から主催者を代表して、ご挨拶をさせて頂きます。

同協議会会長の外間守吉与那国町長は、急遽公務により出席がかなわなかったため、同協議会の副会長である宮城光正北大東村村長より代読させて頂きます。宮城村村長よろしくお願い致します。

【宮城光正北大東村村長】皆さんこんにちは、紹介頂きました、離島振興協議会の副会長を仰せつかつている宮城でございます。本日は本協議会の会長であります外間守吉与那国町長がご挨拶申し上げますところですが、公務の都合で参加ができませんので、私から代読をさせていただきます。

本日のシンポジウムを開催するにあたり、主催者を代表して、ご挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい中、このように多くの方が足を運んでいただき、心より感謝申し上げます。

また、内閣審議官甲斐正彰様におかれましては、基調講演をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。そして、内閣府沖縄総合事務局長の能登靖様をはじめ、パネリストの皆様におかれましては、ご多忙の中、パネルディスカッションへのご臨席をお引き受け頂き、心より御礼申し上げます。

また、この後、後援としてご挨拶をいただく桜美林学園理事長・桜美林大学総長の佐藤東洋士様におかれましては、遠い沖縄までようこそおいで下さいました。心から歓迎申し上げます。

今回のシンポジウムは、「どうなる・どうするあなたの町村『離島』から地域創生を考える」をテーマに「一般財団法人地球共生ゆいまーる」さんのお力添えを頂き、共に開催する運びとなりました。

さて、先月発表された、平成27年国勢調査の結果を見ると、日本の人口は、約1億2709万人で、5年前と比較すると、約96万³⁰⁰⁰人減少しております。しかし、沖縄県は、人口が約143万4000人で、

5年前に比べ、約4万1000人増加しております。これだけを見ると、沖縄は人口が増加しているの
で、国が進める地方創生は関係ないように見えますが、市町村毎に見ると、石垣市、竹富町、与那
国町、及び座間味村を除く、11の離島市町村では、合計で²⁶⁵⁵人減少しております。

離島には豊かな自然と、芸能や文化が伝統として脈々と受け継がれています。しかし、回りを海に
囲まれているが故に、かつ地理的な要因により、産業や医療を充実させることが難しく、定住化に
繋がりにくいのが現状であります。

「離島の振興なくして沖縄の発展はない」と翁長知事も常々仰っております。それは、21世紀ビジョ
ンの基本計画にも、しっかりと盛り込まれており、「離島で暮らす人々が、島への思いを強くし、定
住できる環境を作ることが、沖縄県の発展に繋がる。」と理解できると思います。

本日も参加くださいました皆様、及び市町村関係者の皆様には、今回のシンポジウムで得た情
報やアイデアを、しっかりと持ち帰って頂き、検討を重ね、更なるステップへと繋げていただきたいと
思います。知恵と創造力を最大限に引き出し、総力を挙げて、地域創生に挑んでいきましょう。

結びになりますが、本日参加された皆様の、益々のご健勝と、皆様の住む、各離島並びに各地
域の、益々のご発展を祈念申し上げます、わたくしからの挨拶といたします。

平成28年11月29日沖縄県離島振興協議会会長 外間守吉 代読 同副会長 宮城光正



【司会】ありがとうございます。ありがとうございました。

続きまして、当シンポジウムを後援していただいている桜美林大学を代表し、佐藤東洋士様からご挨拶を頂戴したいと存じます。佐藤様は現在学校法人桜美林学園の理事長および桜美林大学の総長としてご活躍されています。また同時に現在世界の大学の学長や高等教育機関の総長らによって構成される世界大学総長協会の会長を務められておられます。

佐藤様どうぞよろしくお願いいたします。

【佐藤東洋士理事長】みなさんこんにちは。いまご紹介いただきました桜美林大学の佐藤と申します。今日は、後援ということにさせていただいておりますが、橋本晃和先生が本学の特任教授を務めておられ、一般財団法人地球共生ゆいまーるの活動にご尽力なさっているとのこと、是非応援させて頂きたいということでした。

最初、橋本先生に時間が空きそうだから伺うことをお伝えした際、聴衆の一人として勉強させて頂きたいと考えておりましたが、何か一言挨拶をとということ、一言申し上げたいと存じます。

沖縄県と桜美林とのつながりについては、意外と古くて、復帰前の頃ですが、（桜美林大学が開学する前の）桜美林短期大学の頃から、沖縄出身の学生を迎えておりました。その頃の短大英文科の学生は卒業後、地元の英語の先生になられたりしていますが、復帰後も卒業生との交流を深めています。今日も卒業生が来てくれます。

私どもは復帰前から、沖縄での現地入学試験を行っております、何十年も首里高校を会場にさせていたできておりました。それで、沖縄からの入学者が毎年、一定程度の数がいるということでもあります。

また、現在の沖縄キリスト教学院大学（4年制大学と短期大学の併設）は、以前は沖縄キリスト教短大のみでしたから、短大を卒業してから、桜美林大学の3年生に編入学をされる形で本学

にお迎えさせていただいたこともございます。

桜美林で学び、また沖縄に戻って生活をしている人たち、連絡が取れている人達だけで、現在466名いらつしゃいますが、時々同窓会をしたりして交流を深めておられます。

1980年代だったと思いますが、「エツカホテル沖縄」という那覇市のホテルがありました、そのお嬢さん達が本学短大に入学されたこともありました。私どもも毎回このホテルを利用していただいております。

先ほどご紹介頂きましたが、私は、現在、文部科学省中央教育審議会の大学分科会の委員をしております。そこで「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関」をどうするかということを議論しておりますが、その狙いは、地方創生、地方で教育が完結する様なものが必要で、そこにあると思っております。

現在、日本の私立大学が529大学ありますが、これらの大学が所属する私立大学連盟と私立大学協会いう2つの団体を統合した団体で日本私立大学団体連合会という組織があります。私は、その連合会に設けられた地方創生、地方活性化の委員会の委員長をやっております。都市圏の人口集中問題も深刻ですが、何といってもどんどん大都市に引き寄せられしまう、仕事もそこにあるということ、これを何とか地方に戻さなければならぬ。さきほど私は、466名が沖縄に戻っている

と申し上げました。それと同数くらいの方々は東京その他で仕事をされていると思っております。

そういう意味では学生が、桜美林を移動することができるような何らかの制度を作るといことが今、大学の立場としても考えているところでもあります。今日のテーマはいくつかおありだと思いますが、私達との関連でいうと、現在でもやっていることは、沖縄国際大学や公立大学法人になりましたけれども名桜大学とが学生の交流ということで、1年間それぞれの学生が私どもの所に来て、学んでまた元に戻るとい「移動」が出来るシステムを行っております。そういったことが、もとの学校にとつても活発になりますし、いいのではないかと考えております。

また、そこから派生して、私ども大学、サービスマーケティングプログラムを行う教育機関として、最近では「沖縄学」に基づいた科目を開設して行っております。内容は、沖縄についての地域研究を1学期間15回の授業を行い、十分に知識理解を深めた上で、フィールドワークとして沖縄でのボランティア活動に10日間従事するというものです。

2009年から活動を始めた大学のクラブで「沖縄エイサー部」というのがあります。これは本学学生が沖縄国際大学で、先ほど申し上げた「国内留学制度」によって1年間学ばせていただいた際に、エイサーに感銘を受けて、桜美林に帰ってきてから活動を開始したという団体です。今では部員も60名を越えるほどで、本学の地元・町田市のエイサー祭り出演を始め、首都圏の大きな

祭りからいくつも公演依頼が来るほどの活動をしております。

また、20年近く前の話になりますが、当時、恩納村に大城英喜村長がいらしたかと思いますが、大城村長のもとに恩納村にスポーツを中心として教育する高等学校を作りたいと相談に参りました。その時は、気候の面から言ってゴルフ、野球にしても集中して学べるということ、これからのスポーツについては語学ができないスポーツマンというのは、グローバルに羽ばたけないだろうと、これからは語学教育をしつかりやるのだという夢を持ってお話しになっていたことを覚えております。

それまで、私どもの他にもお話しがあつたのでしようが、その昔甲子園でも優勝した高校のイメージがあるのでなんとなく、語学教育とスポーツと両方あるのではないかというイメージをなされたのではないかなというふうに思っております。

いずれにせよ、そういう意味ではここにありますように「後援」となっております。桜美林は、沖縄の活動に対して是非サポーターとして、今後も活動が出来たらと思っております。地理学から見ても日本ほど長い距離を持った国は数少ないです。そういう意味では、離島の問題ということを見ても日本全体にとつて、とても大切な課題であると思えます。

是非、そういう意味でも私達も学びつつ、お役に立てればと思っております。大変拙い話ではありますが、今日こういう会に加わらせて頂きましたけれども、ますます橋本先生の応援団

として活躍しなければいけないなと思っております。本当に今日は有り難うございました。(拍手)



【司会】続きまして、ご来賓のご挨拶を能登靖様から頂戴したく存じます。

能登靖様は、内閣府において沖縄政策担当統括監付産業振興担当参事官などを歴任された後、2012年から14年まで沖縄総合事務局経済産業部長を務められ。現在は、沖縄の地方農政、財務、経済産業、建設、運輸等を束ねる沖縄総合事務局長として活躍されています。能登様よろしくお願ひ致します。

【能登局長】皆様こんにちは、ただいまご紹介頂きました内閣府沖縄総合事務局局長をしておりません、能登と申します。本日は、このシンポジウムにお招きいただきまして誠にありがとうございます。「離島から地域創生を考える」という題名でありますけれども、シンポジウムの開会にあたりまして、一言ごあいさつを申しあげます。

我が国は全体で^{6,800}あまりの島からなっている島嶼国であり、そのうち40を超える島が有人離島と呼ばれております。この⁴⁰の島はそれぞれ多様で、それぞれ豊かな自然と長年に亘りまして育まれた伝統や多様な文化が今日まで継承されております。

日本は人口規模で見ますと、世界で第6位、国土面積で見ますと世界第61位という位置にありますけれども、排他的な経済水域でいうと世界第6位となっております。沖縄についてみれば、皆様ご承知のように海域は、南北400キロ、東西では1000キロにもわたっています。どの島も、我が国の大事な領土、海域を担う重要な役割を担っております。この離島の振興というテーマにつきましては、我が国の発展にとって、切っても切れない、重要なテーマであると思っております。一方、離島に暮らす人々に置かれましては、沖縄の言葉で「島ちゃび」と言われるように、様々な課題に直面されています。交通の面、物流の面、雇用の面、教育の面でも様々な課題を抱いていらつしやいます。

特に、中学校を卒業した時に、それと同時に島を離れなくてはならないいわゆる「15の春」の間

題もございます。それから、高校がある離島に関しましても、高校卒業と同時に島を離れなければならぬという問題もございます。

こうした課題につきまして、橋本先生の方から詳しくご説明・ご紹介頂くことになっておりますけれども、私ども内閣府沖縄総合事務局といたしましても、今、5年毎の中間見直しの時期になっております。5次にわたる沖縄振興計画に基づきまして離島の振興発展の基盤となります空港や港湾といったインフラの整備に携わっております。インフラの整備だけでなく、製造業ですとか農林水産業といった離島でのそれぞれにおける産業の振興の事業も引き続き行っております。

離島につきましては先ほど申し上げたような難しい課題だけではなく、私たちから見れば様々な可能性を有しているところでもあります。この点につきましては、第Ⅱ部のパネルディスカッションにて触れさせて頂ければと考えております。

いずれにいたしましても、本日のシンポジウムにお招き頂きまして改めて感謝を申し上げますとともに、このシンポジウムのご成功、本日お集まりに皆さま方の益々のご健勝とご発展を祈念致しまして、簡単ではございますが私のごあいさつとさせて頂きます。本日はどうもありがとうございます。



